

商店とガラス工房の 経営、育児を両立

大崎上島ガラス工房 Marble 代表／Iターニン 新本典子

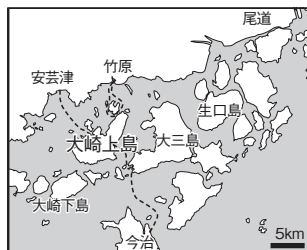
島で子育てがしたい

私は、二〇〇三～一一年まで、出身地である広島県福山市で、父とともにステンドグラス、ガラスアクセサリーの教室と販売のお店の経営に携わっていました。父のステンドグラス製作を手伝いながら、自分もアクセサリーの技術を学び、独学でオリジナルのアクセサリーをつくり、販売も行っていました。

二〇〇八年に大崎上島出身の主人と出逢い、翌年に結婚、その一年後に第一子を授かりました。両親の理解と協力のもと、子育てをしながら仕事も続けていましたが、主人の「田舎で子育てがしたい」という希望もあり、二〇一一年一月に大崎上島町に移住しました。移住後、二〇一三年

四月に第二子、二〇一五年一月に第三子を出産し、一気に三児の母になりました。

私自身、移住するまで大崎上島のことはあまりよく知らず、福山の友達たちも「（島のことは）聞いたことがない」と言っていました。主人の地元である明石地区にいたっては、過疎化が進み、高齢者が多く、子どもの少ない地域。近くの小学校でもクラスに一〇人も児童がいらないような所です。人口の多い福山の市街地から、よく分からない島の、さらに過疎地に住むということに対して、最初はやはり不安がありました。「物」がないことなどに対する不安よりも、「人」とのお付き合いなどに対する不安のほうが大きかったです。しかし、実際に住んでみると地区の皆さんは元気で働き者、年齢も関係なく友達になっていただき、想像以



大崎上島：瀬戸内海中央に位置する芸予諸島の島。面積38.34km²、周囲60.9km。大崎上島町は平成15年に島内3自治体が合併してできた。人口7,801人（平成29年4月末現在）。造船と柑橘栽培で知られ、「教育の島」として特色を打ち出している。



ガラス工房 Marble の店内。

上に明るく暮らしやすい所だなと感じました。

最高の贅沢ができる島の暮らし

島の暮らしは、今までの私の生きてきたものとはまったく違うものでした。コンビニもドラッグストアもない……。ただ、**「楽」**はできないけれど、**「最高の贅沢」**はできています。

例えば、ご近所の皆さんがお裾分けしてくださる新鮮なお魚や野菜・果物を、毎日味わうことができます。とです。島での生活は、季節ごとに旬のものを楽しめる喜びを教えてくださいました。毎日三食、台所に立って魚をさばいたり、地元の方から美味しく食べられる料理法を聞いて子どもに食べさせていたところ、子どもたちはあまり好き嫌いなく、ピーマンやブロッコリー、キュウリは丸かじり、お魚も大好きで何でも食べられるようになっていました。

私のように地元の人間ではない者に対しても、子どもを連れて散歩すると誰かが声をかけてくださったり、お菓子进行をいただいたり、庭に咲いているお花をくれたり、鯉のエサやりと一緒にさせてくださったりと、毎日、いろいろな方が気軽に話しかけてくださいます。そのため、孤独感もなく、地域の方々と一緒に子育てができています。山や海など自然に囲まれている点も含め、自由にのびのびと育児ができる絶好の環境だと思います。私が島でアトリエを持つことができているのも、この環境があればこそです。

多くの声援を受けながらのガラス工房の開業

私は、主人の勧めもあり、二〇一五年八月に商工会の「総合補助金制度」を活用して、自宅近くにある商店「明石ストアー」の二階を改装し、ガラスアクセサリーの工房兼お店「Marble」をオープンしました。同年の一月に第三子を産んだばかりで、産前産後でのお店の開業準備は、とても大変でしたが、大崎上島商工会の方、町役場の方などにご協力いただき、どうにか補助金の審査を通過させることができました。会社の規模に関係なく、「島の未来のために頑張ってください」と、多くの方々の声援をいただけたから頑張れたのだと思います。

また、店を始めたはいいものの、子ども二人（当時〇歳と二歳）を連れて仕事をしなければならず、アクセサリー

の製作はもちろん、販売の接客まできちんとできるかどうか心配でした。しかし、お店に来られる島内外のお客様が、私にも子どもにも優しく接してくださるため、そんな不安はすぐになくなりました。

私自身も徐々に仕事に慣れ、時間の使い方もわかっていきました。例えば、イベントへの出店前のように、多くの製作品がある場合は、焼いたガラスを家に持って帰り、九時に子どもたちを寝かしつけてから、夜中まで仕上げ作業に取り組んだこともあります。

作品を通して島の魅力を発信

島でお店を始めてから、(福山の頃と比べ)作風が変わったと、言われるようになりました。確かに、お店では「島のイメージガラス」として、海のブルー、空のスカイブルー、特産物のブルーベリーの色やレモンの色などをガラスの色で表現した商品を販売しています。きっと、毎日目にする島の風景、五感に感じる自然が、私のインスピレーションに影響を与え、作風に表れたのだと思います。

大崎上島に住んだことで、作品だけでなく、自分の考え



熱を加えていろいろなガラスを組み合わせる「フュージング体験」も行っている。

方までも変わった気がします。地域の方々に親切にしていただし、その人たちを喜ばせたいと思うようになりました。また、島外の方に「大崎上島は本当に良いところだ!」と言ってもらいたいという思いも強くなっています。自分の作品に込めた思いが、お客様に伝わっていることを直接確認できるのも島の店の良さです。こういった気持ちで仕事に臨めているので、新しい作品づくりにも熱が入ります。

家族で商店とガラス工房経営に取り組む

今年四月に主人が地元の銀行を辞め、私のお店の一階にある明石ストア(五〇年続く昔ながらの商店)を引き継ぐこととなりました。そのため、私の生活と仕事の時間は少し変化し、毎日、次男を連れて主人の商店を手伝いながら、二階のお店の運営もするという状況です。限られたわずかな時間のなかで作品づくりに取り組むという過酷な環境となりましたが、その分、地域の人々とのふれあいも多くなり、より楽しみながら働かせてもらっています。地域と接する機会が増えたことで、お年寄りの生活についても考えるようになりました。今の高齢者はもちろん、



主人が受け継いだ地元商店「明石ストア」。

行政からのメッセージ

◎起業と商店の継承で、地域活性化に貢献

大崎上島町は瀬戸内海のほぼ中央にあり、古くから海上交通の要衝として栄えてきました。また、瀬戸内ならではの気候の中で育つ柑橘類を主とした豊かな実りも、町が誇る産物の一つです。

本町では人口減少の流れが止まらず、それに伴って少子高齢化が大きく進行しています。積極的に町外から新たな町民を迎えるなど人口減少に歯止めをかける対策を講じるとともに、町民が生活に満足できる環境づくりがもっとも重要な課題です。

島の商店が年々減っているなか、新本ご夫妻は地域の商店の経営を継承されたり、これまで島になかったガラス工房をオープンされるなど、地域の活性化に

貢献していただいております。また、大崎上島の情報をたくさん発信していただき、町の認知度の向上に大いに寄与していただいております。

現在、大崎上島町では「定住・移住アドバイザー」を設置し、島の生活に関する情報の提供や移住に関する相談、地域の方々の紹介や仲介などの支援を行っています。また、大崎上島での暮らしを味わっていただくために、中・長期定住体験用住宅（トライアルハウス）を整備しています。1週間から3カ月まで滞在することができますので、ぜひ大崎上島町地域経営課（電話0846-65-3123）までお問い合わせください。

（大崎上島町地域経営課地域振興係 浅岡祥太）



島暮らしで、家族で過ごす時間が増えた。

新本典子（しんもと のりこ）

広島県福山市出身。2003～2011年まで同市でスタンドグラス・ガラスアクセサリーの教室・ショップを父と経営。結婚・出産を機に主人の出身である大崎上島へ移住。2015年8月、ガラス工房Marbleをオープン。3児の母。

今後私たちが、地域に輝きを提供できる家族であるよう努力していきます。

これから年をとられる方にとってもうるおいのある暮らし、コミュニティを提供できたらと思っています。中長期的な目標として、主人と一緒にじっくり考えながら取り組んでいきます。

また、過去には島に来る修学旅行生などを民泊先として受け入れたことがあります。現在は子どもが小さく中断しておりますが、将来的には再び取り組んでみたいと思っています。

ガラス工房についても、今後はアクセサリーにとどまらず、皆さんの日常を明るくできるような作品（例えば、ガラスのお皿など）を製作していきたいと考えています。